

学校評価特集号

令和7年10月18日

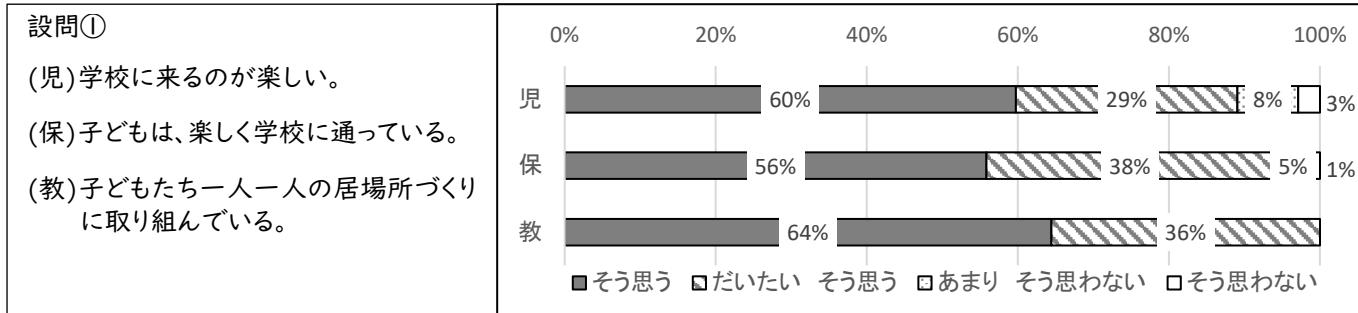
京都市立岩倉南小学校

校長石田和三

平素より、本校の教育活動に多大なご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

6月末から7月にかけて行いましたみなみアンケートにご協力いただきありがとうございました。この「学校評価特集号」では、「みなみアンケート」の結果とそれをもとにした振り返りをお伝えします。よいところも課題も含めて、保護者や地域の皆様と共有することで、よりよい学校づくりにつなげていきたいと考えています。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

(児:児童 / 保:保護者 / 教:教職員)



アンケートでは、はじめに「学校に来るのが楽しい」かどうかを尋ねています。

児童、保護者のどちらの結果からも、「学校が楽しい」と感じている子が多いということがわかります。子どもが毎日楽しく通え、そして満足して下校できるように日々取組を進めています。一定、その効果が表れていることは大変うれしく思います。

しかし、児童、保護者のどちらの結果からも、「学校が楽しい」と感じていない子もいることが分かります。すべての子にとって学校が楽しい場所になることは難しいかもしれません、学校という場所が子どもにとっての居場所の一つとなるような学校づくり、クラスづくりを目指していきます。

記述欄は、学校教育目標達成のためのアイデアやご意見を書いていただきました。

「コロナ禍明けから運動会が低中高での開催となっていますが、全校で開催してほしい。子どもの頑張りをみんなで見て応援できるような雰囲気を大切にしてほしい。」「課外授業や教室以外で学ぶ授業を増やしてほしい。」「低学年はまだまだ大人の管理下に置かれることが多いので、行動の選択肢を2つ以上提示して子どもが選べるような環境を作ることを心掛けてほしい。」「学校での教育内容について家庭で知る機会が少ないため、学校での教育内容を日常生活に活かせているのかどうかを保護者が判断することが難しい。学校で何を学んでいて、それを日常生活でどのように活かしてほしいのか、子供本人にはもちろんだが、家庭にももっと情報共有してほしい。」「やさしさと思いやりはとても大切で、子どもも大切にしていますが、それを大切にしすぎて、自分自身を大切にすることを忘れてがまん、がまんになってしまっていることがあります。相手に思いやりをもって接するには、まずは自分を大切にすることも大事にしたいです。」「数字ではからない学びが日本の小学校でもできるようになるといいなと思います。」「先生からのコメントが子どもの意欲を高めることに繋がっているので、コメントは書くようにしてほしいです。」「先生方は、ただ勉強するだけでなく、毎日の学校生活を楽しめるよう様々な工夫をしてくださっていて、子どもは充実した日々を過ごしているようです。教育とは勉強だけではない部分が大きいなど感じます。」

など、子どもたちの成長のために様々な意見をいただきました。またここでは書ききれませんが、この他にもたくさんの意見をいただいており、教職員全体で共通理解しています。この場で一つ一つの意見や質問に、お答えすることはできませんが、今までの当たり前を問い合わせし、少しでも子どもたちにとって学校が安心して自己を発揮することのできる場になるように取組を進めていきたいと思います。

また「登下校時の車での送迎で危ない場面を何度も目にしている。」「高学年の児童が少し交通マナーにルーズになりがちと見受けられますので、高学年にもきちんと指導してほしいです。」等の意見もありました。怪我や事故が起こってからでは取り返しがつきません。子どもも大人も安心して過ごすことができる岩倉南小学校区になるように心がけていければと思います。

「思いやり、たがいの良さを認め合う子」の育成について

設問②

- (児)友だちのよいところを見つけている。
 (保)子どもは、友だちのよいところを見つけている。
 (教)子どもたち一人ひとりのよさを見つけ、認め、ほめ、伸ばしている。

設問③

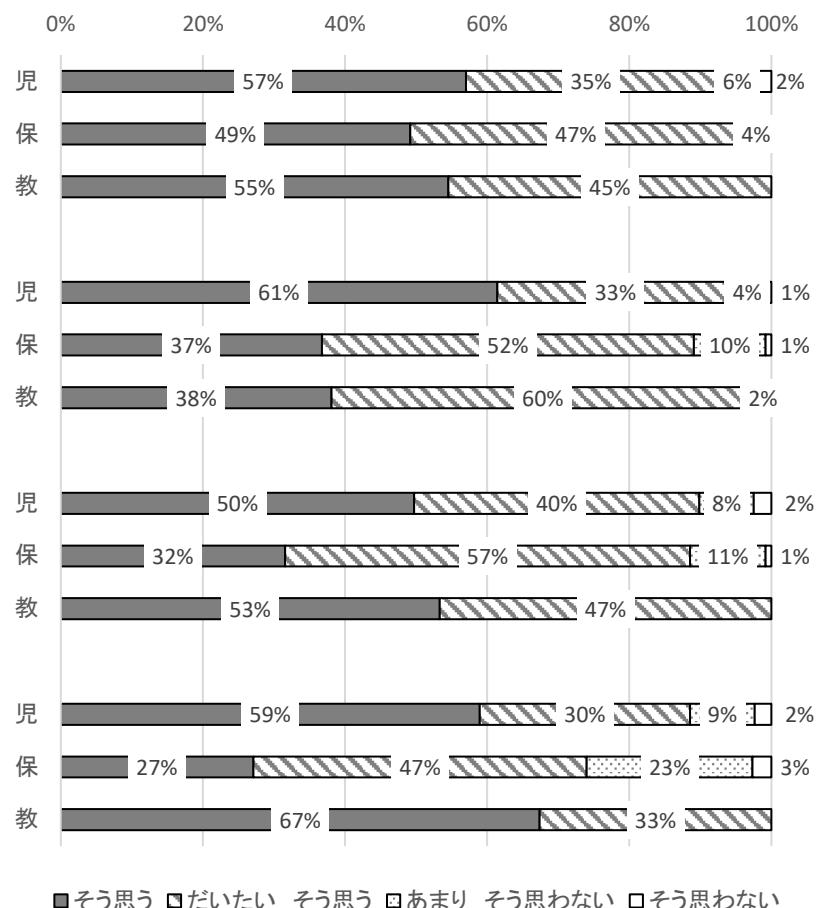
- (児)自分もみんなも楽しく過ごせるようにしている。
 (保)子どもは、毎日楽しく学校生活が送れるように、自ら工夫して活動している。
 (教)その子のよさが、その子のためにもみんなのためにも活かされるような場や機会をつくっている。

設問④

- (児)学級目標や学校目標を意識して活動している。
 (保)子どもは、学校目標である「やさしさと思いやり」「一生懸命はかっこいい」を意識した生活を送っている。
 (教)学級目標や児童会の月目標を意識した教育活動を行っている。

設問⑤

- (児)自分から挨拶をしている。
 (保)子どもは、自分から挨拶をしている。
 (教)自分から挨拶をしている。



■ そう思う □ だいたい □ あまり □ そう思わない □ そう思わない

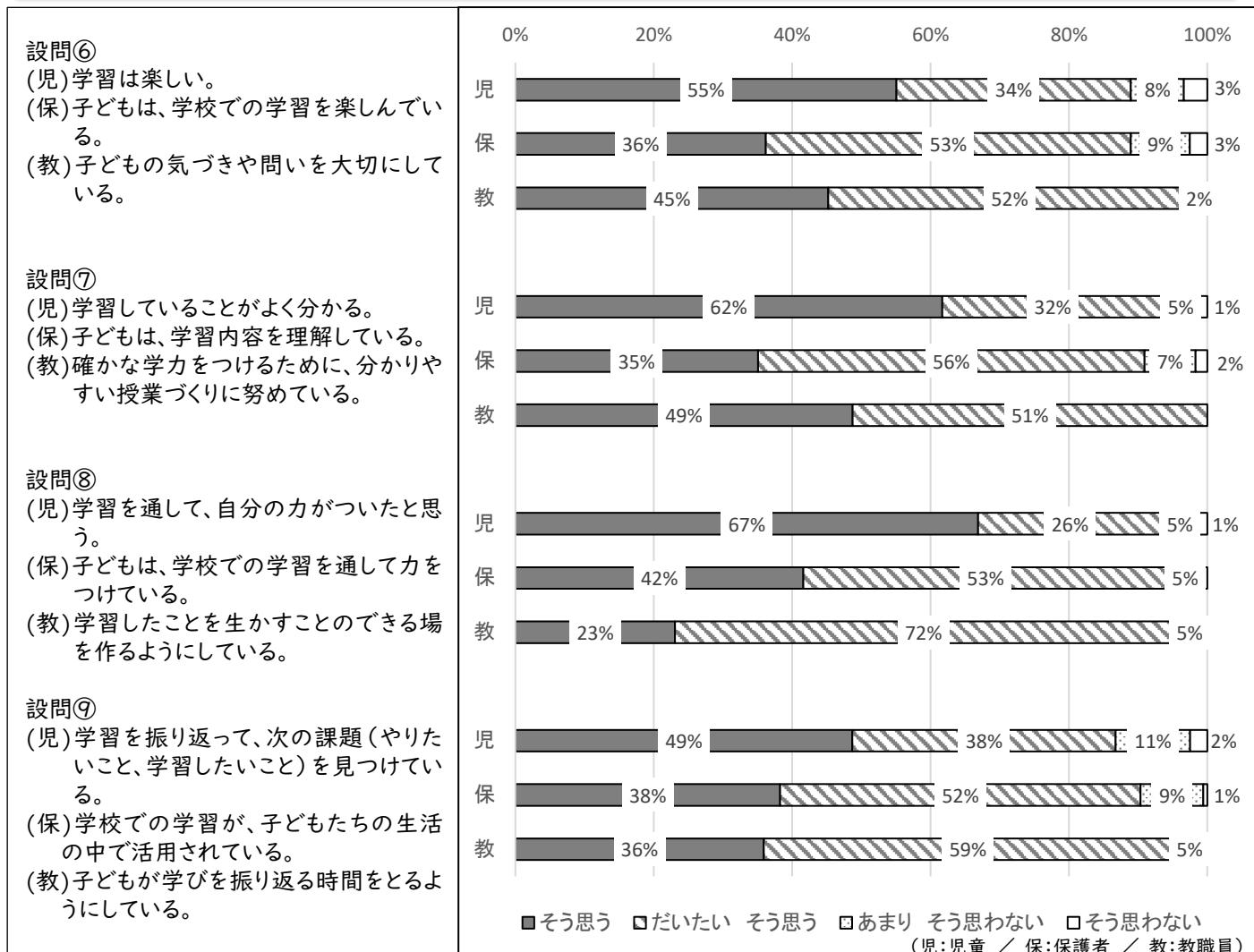
② 2学期の始めには、各クラス夏休みの思い出すごろくをしたり、椅子をサークルの形にして夏休みの作品を交流し、良さを見つけ合ったりしました。学習の中でも、友だちと意見を交流すること大切にしています。自分だけではなく周りの人の良いところを見つけられる子どもは、きっと家庭や学校でも自分の良さを認めてもらっている機会も多いと思います。子ども自身が本当に認めてもらいたいときに的確に認められるようにしっかりと一人一人を見ていきたいと思います。

③ みんなが楽しいという雰囲気を作るためには、まずは自分自身が楽しまないといけません。5月に行なったたてわり遠足では、たてわりグループ全員が楽しくなるように、高学年の児童が盛り上げようと様々な話をしたり、笑顔で関わったりしている姿が印象的でした。その他にも、クラスの係活動や委員会活動など全体のことを考えた取組もバリエーション豊かになってきています。このような機会をさらに増やしていくとともに、自分の頑張りが他の人の楽しさに繋がっているという実感をもてるようにそれぞれの活動に価値づけや意味づけをしていくことが教師の役割なのではないかと思います。

④ 「やさしさと思いやり」「一生懸命はかっこいい」という合言葉をもとに、日々の取組を進めてきていますが、十分に意識できていないという結果も見られました。これを受け、「やさしさと思いやり」をもって生活できているってどういったことなのかも伝えていく必要があるのではないかと考えます。例えば友だちの気持ちを大切にすることだけでなく、相手のもの、公共のものも大事にすることの大切さも、日々の生活の中で丁寧に伝えたいと思います。ご家庭でも話題にしているだけるとありがとうございます。優しさや頑張りに気づいて声をかけていただくとともに、気になる姿があれば話を聞いていただくこともまた子どもの成長につながるのではないかと考えます。

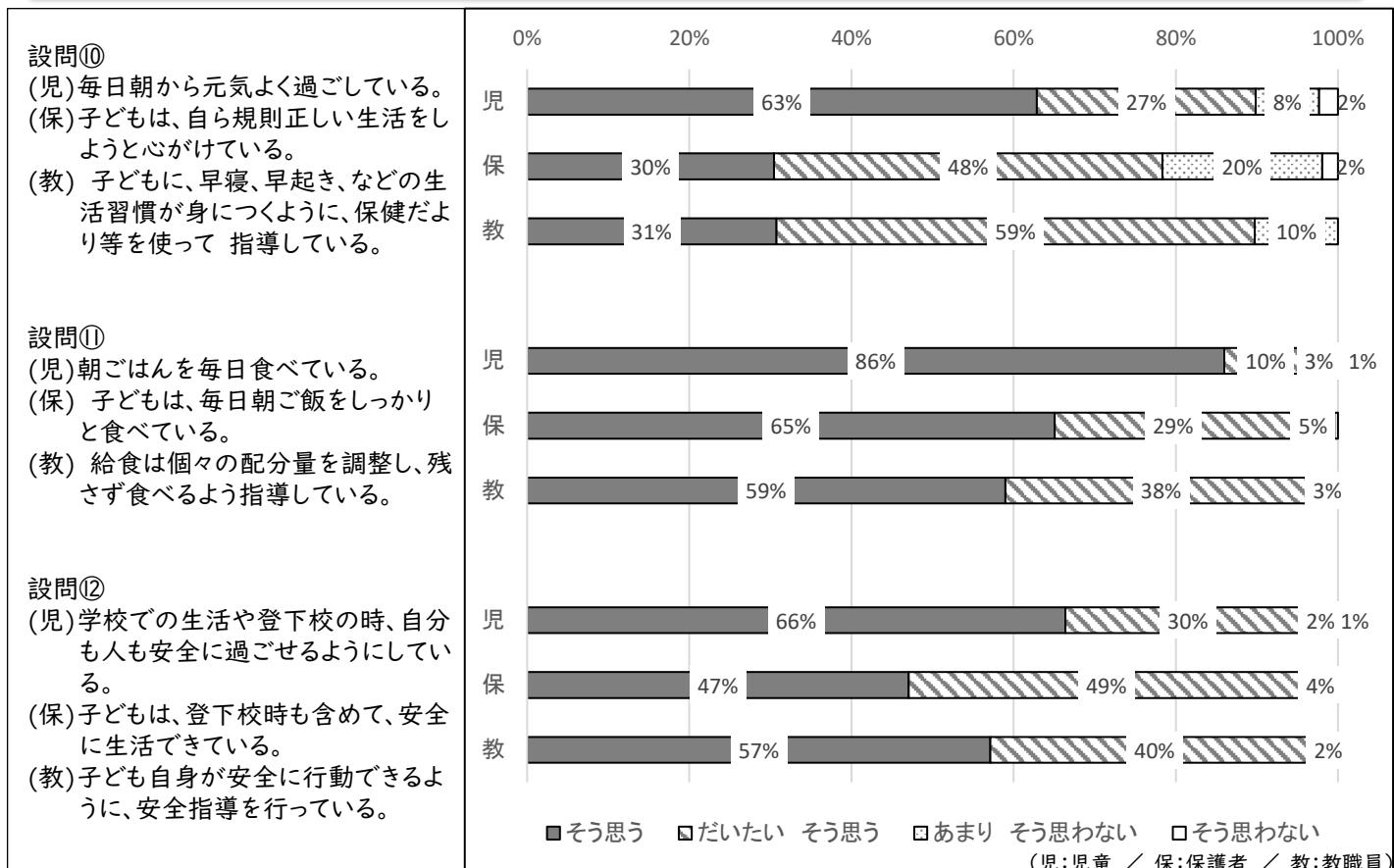
⑤ 昨年度同様、児童の結果と保護者の結果の差に開きがあったのがこの項目です。子どもは89%が肯定的な回答をしているのに対し、保護者は74%にとどまっています。学校では、大人が挨拶するとほとんどの子どもは、挨拶を返してくれますが、自分から挨拶できているかとなると、この結果になるかもしれません。ただ「挨拶をしなさい。」だけでなく、挨拶をする意味についても考えられるようにしていきたいと思います。

「自分で考え、行動する子」の育成について



- ⑥ 昨年度までの授業実践を経て、今年度は子どもたちが学びたいと思えるような環境設定をすること、自分たちで学習の進度や方法を選択して進めること、ができるような学習を年に数回取り入れています。子どもたちのやってみたい、知りたいという思いから学習が進められるように、学習の入り方も工夫しています。知識だけを重視した学習だけではなく、子どもが自ら学びに向かう力がつけられるような学習を行っていかなければと思います。また、このような取組が、子どもたちにとって学習が楽しいという結果につながると信じています。
- ⑦ 6年生対象の学力調査の結果は、国語、算数、理科それぞれ全市の平均点を大きく上回っています。2学期からは、子どもたちにIPadが配備されました。さらに学びの幅を広げていけるのではないかと楽しみにしています。ただ、IPadだけに頼るのではなく、従来の紙に書いて定着していた学習も合わせて大切にしていきたいと思います。様々な学習方法が選択できる環境で、どの方法が自分に合っているのかを考えられるような取組を増やしていきたいと思います。すべての子どもたちが「分かった!」「できるようになった!」という達成感や喜びを感じることができるように2学期からも取組を進めています。
- ⑧ 2学期からは、行事がたくさんあります。それぞれの学習でつけた力を生かしていく機会が増えてきます。この授業のこの学習が、こんな力に繋がっているんだよと周りの人が価値づけ、成長を伝えていけると子どもたちにとって、それが実感できるのではないかと思います。また1つの授業だけでなく、単元ごとのまとめ、教科ごとのつながりも教員自身が意識しながら授業改善に努めていきたいと思います。
- ⑨ 振り返りは今年度大切にしていることの一つです。特にこの学習の学び方はどうであったか、次の時間はどんなことに挑戦したいかという内容を学習の足跡として残していくようにしています。次のやりたい!が見つけられるための振り返りになるような時間や方法をこれからも探っていきたいと思います。

「命を大切にし、心と体をきたえる子」の育成に関して



- ⑩ 子どもたちは、「毎日朝から元気に過ごしている。」に「そう思う」と回答している子が6割を超えるのに対して、保護者の「自ら規則正しい生活をしようと心がけている。」の項目は、「そう思う」が半数以下になっています。これは、保護者のサポートのもと規則正しい生活が成り立ち、子どもたちの健康につながっているのだと推測されます。学校では、毎月のほけんだよりやげんきもりもりカレンダーの実施、学期ごとの保健に関する指導を通して、子どもたちが自ら規則正しい生活をおくることの重要性を理解できるよう努めています。ご家庭でも、おたより等を活用し、お話しいただけますとありがとうございます。
- ⑪ 令和6年の全国調査では、「朝ご飯を毎日食べていますか」という問い合わせと各教科の正答率の間に相関関係（質問に対する回答が肯定的であるほど、正答率が高い関係）が小・中学生ともに見られました。普段の生活習慣が、様々なところに関係していることが分かります。子どもたちは、睡眠中に体と脳を休め、エネルギーが不足した状態で目覚めます。朝ご飯をしっかりと食べることで、脳に必要なエネルギーが補給され、集中力や記憶力が高まり、学習への意欲もぐんと向上します。忙しい朝ですが、ご飯・パン・バナナ・ヨーグルトなど簡単に準備できるものを活用し、毎日朝ご飯を食べる習慣を大切にしてほしいと思います。
- ⑫ 96%の子どもが安全に過ごせるようにしていると回答していますが、立ち番ボランティアの方のお話を聞いたり、普段の学校での生活を見ていたりすると危険だなと思われる場面も多いように思います。自分は意識しているつもりでも周りからはどう見えているのか、自分も周囲も安全に過ごすためにはどうすればよいかということを学校でも指導していきたいと思います。ご家庭や地域でも危ない姿が見られましたら声をかけていただけますとありがとうございます。

この特集号の発行に先立ち、学校運営協議会理事会を開催しました。理事の方からは、「大規模校の特色を生かしての取組がすばらしい。」「生成AIもすぐ手の届くところにあるこの時代、何を大切にしていいけばよいのか。新しいことを学ぶことも大切だが、ずっと続けられていることも大事にしていってほしい。」等の意見をいただきました。

引き続き、本校教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。